

組合員のみなさまへ



JA 鈴鹿 自己改革の取組み状況について

(令和4年度 自己改革進捗状況報告書)

JA 鈴鹿では、自己改革の重点項目・基本目標・重点施策を策定し、JAグループが共通目標として掲げる「農業者の所得向上」・「農業生産の拡大」・「地域の活性化」の実現に向けた様々な取組みを進めています。その主要取組項目の進捗状況と成果についてご報告します。

1. 営農振興基金をはじめとする総合支援策の実施

多様な担い手の育成・支援として、地域農業の将来を担う新規就農者や規模拡大を目指す意欲的な生産者に対して、営農振興基金を通じて機械・設備等の購入費用の助成を行っています。

また、獣害被害対策支援や農業関連特殊免許等取得支援、農機格納点検整備料助成など、農業振興に向けた様々な支援を行っています。

さらにはGAP（農業生産工程管理）の推進に向けた認証取得に必要な審査費用等の助成や、農業資金新規借入先への借入金利の減免（借入当初3年間最大1%）も行っています。



成果指標	3年度	4年度	累計
営農振興基金	367万円 (9件)	111万円 (5件)	6,150万円 (167件)
獣害被害対策支援	151万円 (46件)	164万円 (53件)	1,417万円 (452件)
農業関連特殊免許・GAP認証取得支援	85万円 (22件)	44万円 (10件)	389万円 (91件)
農機格納点検整備料助成	39万円 (33件)	35万円 (27件)	325万円 (261件)

<<今までに実施した支援>>

- ※ 農機具等リース料助成事業（累計）：9,326万円 (46件)
（内訳）水稲：5,565万円 (24件)、茶：3,761万円 (22件)
- ※ 茶における品質向上対策事業（累計）：2,330万円 (93件)
- ※ 多彩な野菜作り応援事業・園芸事業パブリックチェーン応援事業（累計）：1,178万円 (99件)
- ※ 農業資金借入者への負担軽減措置（保証料の減免）：令和元年度まで累計2,823万円 (316件)

2. 白ネギの産地拡大

植木・茶生産農家を中心に、農業所得の向上や農家経営を支援するため、複合品目として収益性が高く、安定的な需要が見込まれる白ネギの生産を推進し、産地拡大に取り組んでいます。

営農振興基金や定植機等のレンタルを通じた支援を行い、新規生産者の育成・確保に取り組むとともに、定期的な圃場巡回指導や栽培研修会の開催により品質向上と安定生産に取り組んでいます。



白ネギは平成25年度に生産部会を設立し当初0.2haの生産面積でしたが、平成28年度には指定産地として認定され、現在では生産面積17.2haの県下最大の産地へと成長しました。

成果指標		2年度	3年度	4年度
白ネギ	生産面積	17.0ha	17.2ha	17.2ha
	出荷量	327.8ト	399.8ト	335.5ト
	販売高	1億1,361万円	1億1,892万円	1億895万円
	生産者数	48名	48名	48名

※ 平成28年度に、特定野菜等供給産地育成価格差補給事業の指定野菜として認定されました。

3. 野菜の生産振興

共働き世帯の増加など、ライフスタイルの変化に伴って食の簡便化が進行し、加工・業務用野菜の需要が高まる中、実需者ニーズに対応した契約取引により加工用ハクサイ・カボチャの生産を推進し、農家経営の安定と所得向上に取り組んでいます。平成 25 年度に生産部会を設立し当初 2.0ha の生産面積でしたが、現在では 18.7ha まで規模拡大しています。

また、生産拡大を進めてきたキャベツは、令和 2 年度に冬キャベツが、令和 3 年度に春キャベツがそれぞれ指定産地として認定されました。

成果指標		2 年度	3 年度	4 年度
加工用野菜 (ハクサイ・カボチャ)	生産面積	16.2ha	17.0ha	18.7ha
	出荷量	716.1トﾝ	784.4トﾝ	815.9トﾝ
	販売高	4,828万円	5,193万円	5,594万円
	生産者数	44名	51名	45名
キャベツ	生産面積	29.0ha	30.5ha	30.8ha
	出荷量	1,162トﾝ	1,344トﾝ	1,391トﾝ
	販売高	8,888万円	8,894万円	1億487万円
	生産者数	12名	12名	11名

※ 令和 2 年度に冬キャベツが、令和 3 年度に春キャベツが指定産地として認定されました。

4. 子会社「アグリサービス鈴鹿」による農業経営の実践

平成 29 年から J A 本体で実施してきた農業経営を引き受け、子会社「アグリサービス鈴鹿」では、平成 30 年 7 月から農産物の生産・販売を開始しました。

学校給食の主要品目であるニンジン・ジャガイモ、産地拡大に取り組んでいる白ネギなど 8 品目の野菜に加え、水田農業としてコシヒカリ・キヌヒカリの 2 品種の米を生産しています。また、青果物で J G A P 認証を取得しており、子会社が生産したニンジンは、安全・安心に配慮したその生産管理が評価され、J A L 国際線の機内食の食材として採用されました。



成果指標	2 年度	3 年度	4 年度
農業経営作付面積（野菜）	4.7ha	4.8ha	4.7ha
〃（米）	5.4ha	6.1ha	6.8ha



GAP 認証登録・JAL 食材採用 証明書

5. 学校給食への地元産農産物の納入拡大

生産者へニンジン・ジャガイモ・タマネギの契約栽培を推進するとともに、子会社による農業経営により、学校給食への地元産農産物の納入拡大に取り組んでいます。

また、収穫後の野菜を専用冷蔵庫に保管することで品質を保持し、年間を通じた安定納入に取り組んでいます。

全量納入を行っている鈴鹿市中学校給食の地元産農産物の使用率は、重量ベースで 34.6% という状況です。



成果指標	2年度	3年度	4年度
地元産農産物納入量	58,378 ^キ □	57,231 ^キ □	56,286 ^キ □
(使用率)	41.1%	38.7%	34.6%

※ 鈴鹿市中学校給食の鈴鹿産の納入量です。使用率は重量ベースの割合です。

※ 令和2～3年度は、新型コロナウイルス流行に伴う学校の休校により納入量が減少しています。

6. 農機レンタルおよび農作業請負の利用拡大

農機コストの低減による所得向上と組合員の営農継続を後押しするため、農機レンタルの普及拡大に取り組んでいます。

また、遊休地や耕作放棄地の発生防止に向けて、地域農業を支える担い手と連携し、田植え・稲刈りなどの水田農作業を中心とした農作業請負を行っています。



成果指標		2年度	3年度	4年度	累計
農機レンタル	利用件数	170件	188件	183件	1,149件
	取扱機種	13機種	13機種	13機種	
農作業請負	実施件数	49件	45件	63件	341件
	実施面積	7.1ha	6.6ha	7.5ha	45.5ha

農機レンタル 取扱機種	トラクター(25馬力・36馬力)、田植機(4条植・6条植)、畦塗機、フレールモア、代掻きハロー、畦草刈機、草刈機、大豆選別機、白ネギ定植機、白ネギ播種機、白ネギ剪葉機
農作業請負 作業種類	耕起、すき返し、砕土、代掻き、農耕セット作業(耕起から代掻きまで)、田植え、田植え苗運搬、稲刈り(籾運搬セット)、畦塗り、農地の保全管理、水田請負作業セット、油圧ショベルによる耕作放棄地の復旧作業

7. 農機・自動車部門のサービスの拡充

農機・自動車部門の拠点となる整備センターでは、年間を通じた土曜日営業と農繁期における修理等の休日対応の実施により、利便性向上に取り組んでいます。

農機は、小農機具点検整備会や安全講習会を開催し、農作業中事故の未然防止に努めています。

自動車は、車検・修理等のメンテナンスに加え、タイヤの安価供給や保管サービスを提供し、アフターサービスの充実にも取り組んでいます。令和3年より、車検の軽トラック割引を開始しました。



4年度	車検取扱い台数	881台	タイヤ供給本数	975本
-----	---------	------	---------	------

8. 農業生産コストの低減に向けた取組み

入札制度による仕入業者の選定や新規仕入先の開拓、ロット拡大によるスケールメリットを活かした仕入交渉や価格動向を注視した早期一括仕入れ、全農が行う肥料の銘柄集約を踏まえた予約購買の拡大など、仕入機能の強化を図り良品安価供給に取組み農業者の所得向上に努めています。

令和3年度の春用予約注文書から、肥料農薬ともに重点品目奨励相当額を予約価格へ直接折込することで安価供給を実施しています。

大口購入者の対応としては、肥料では化成・配合などを対象に市況対策として相対取引を実施し、農薬は購入金額に応じた奨励金措置を実施しています。(令和3年度実績 約2,700万円)

また、茎葉除草剤の大型規格農薬やジェネリック農薬の取扱い拡大に取組むとともに、安価で汎用性のある「オール14号化成」や「IBS1号」、オリジナル茶用配合肥料の「新緑彩香」・「さくら乃ペレット」などの利用提案を行い、生産コストの低減に努めています。

なお、令和元年度よりドローンで使用出来る肥料・農薬の実証試験を積極的に行い、スマート農業に寄与すべく努めています。

また、茶生産農家へは、肥料メーカーと連携したコンサルティングにより年間施肥設計を策定し、各農家に応じたオーダーメイド型の利用提案を行っています。

全農が行う肥料の銘柄集約を踏まえた価格低減(例)

銘柄集約前	銘柄	成分(N-P-K)	価格 (予約・配達)
	園芸化成682	16 - 8 - 12	4,030円
グリーン化成	14 - 14 - 14	3,890円	

銘柄集約後	銘柄	成分(N-P-K)	価格 (予約・配達)
	園芸化成682	16 - 8 - 12	3,590円
オール14号化成	14 - 14 - 14	3,540円	

直近3ヵ年の大口奨励状況

奨励の実施により
農業者の生産コスト低減に寄与しています。

3,000万円 2,700万円 2,650万円

奨励金額合計 8,350万円

■ R2 ■ R3 ■ R4

9. 農産物直売所「果菜彩」の販売拡大



各地区で野菜栽培研修会を開催し、多彩な野菜づくりを推進するとともに、いきいき農業大学を開校し、圃場実習や講義のカリキュラムを通じて、出荷会員の拡大に取り組んでいます。

果菜彩3店舗では、旬の農産物をはじめ加工品や惣菜など品揃えの充実に努めるとともに、定期的にイベントを開催し、販売拡大に取り組んでいます。

端境期対策と品質向上対策としては、農産物品評会を通じて、生産者への栽培指導と早生品種の作付提案を行うとともに、野菜保管用冷蔵庫を活用し、品質保持と品不足の解消に努めています。

また、出荷者へ生産履歴記帳と農薬の適正使用に関する指導を行うとともに、定期的に残留農薬の自主検査を実施し、安全・安心な農産物を消費者に提供しています。

成果指標	2年度	3年度	4年度
果菜彩取扱高	5億6,362万円	5億5,302万円	5億7,978万円
来店客数	393,810名	388,438名	405,329名
出荷会員数	596名	616名	643名
野菜栽培研修会	14回(323名参加)	16回(307名参加)	14回(338名参加)
生産履歴記帳実施農家数	370戸	373戸	397戸
残留農薬検査実施回数	12回	12回	12回

農産物品評会	463点	茶品評会	28点
--------	------	------	-----

※ 端境期対策品目として、ロマネコ・ガ°・スツグエンドウ・黒大豆枝豆の種苗を出品予定者369戸へ無料配付。

10. 惣菜センターの設置

地元産野菜を使用して製造した惣菜を果菜彩 3 店舗で販売し、利用客の中食ニーズへの対応と地産地消の推進に取り組んでいます。季節に応じた食材を生かし、焼きそば、串カツ、白ねぎコロケや鶏肉とキュウリの酢の物など、安全・安心な手づくり惣菜を消費者へ提供しています。【販売品目数:30 品目】



11. 米生産の維持・拡大に向けた取り組み

生産者手取りの向上に向けて、土壌診断の分析結果に基づく土づくりや適期施肥、病害虫の適期防除など基本技術指導の充実に取り組むとともに、水稻栽培研修会を各地区で開催し、良質米づくりを推進しています。販売面では、大口出荷奨励に加え、担い手支援対策として集荷特別対策奨励を実施し、集荷拡大に取り組むとともに、系統委託販売とJA独自販売を並行して行い、有利販売に努めています。また、担い手へ業務用米の作付提案を行い、令和4年度は多収性品種の「ほしじるし」「みのりの郷」「なついろ」合わせて57.7ha作付し、契約取引による作期分散と収入安定に取組みました。

業務用米作付面積	
2年度	53.8ha
3年度	56.7ha
4年度	57.7ha



《出荷奨励金》	大口出荷奨励	集荷特別対策奨励	合計
100俵以上 200俵未満	100 円/俵		100 円/俵
200俵以上 500俵未満	100 円/俵	100 円/俵	200 円/俵
500俵以上 1,000俵未満	200 円/俵	200 円/俵	400 円/俵
1,000俵以上	300 円/俵	400 円/俵	700 円/俵
奨励実施金額	6,236 千円	6,184 千円	12,420 千円

県内JAに先駆けて、マルチローター（ドローン）の普及拡大に取り組み、今日では主に水稻、小麦、大豆栽培で農薬散布を中心に活発に使用されています。農薬散布以外の使用を目的に粒状、液状肥料散布や、水稻種子の播種（湛水直播）といった様々な実証試験を提案・実施し、生産資材コスト削減と作業効率向上に寄与すべくスマート農業の更なる実現を支援しておりマルチローター技能認証取得費用の助成も積極的に行っています。また、水稻の共同防除を実施しようとする組織に対して共同防除費の一部を助成しており、令和4年度は38万円の助成を行いました。

12. GAP（農業生産工程管理）の推進

東京五輪・パラリンピックの食材調達基準で、国際水準のGAP認証を受けた安全・安心な農産物を優先して調達することが示されたことに伴い、国内流通においてもGAP認証食材の需要が増加しており、新たにGAP認証取得に取り組もうとする生産者への支援を行っています。

米・青果物・茶・畜産の品目ごとにJGAP指導員有資格者10名を配置するとともに、GAPに対応した新生産履歴システムを活用し、認証取得をサポートしています。平成30年度からはGAP認証取得にかかる審査費用等の一部助成を行い、生産者へのGAP推進を本格的に開始し、管内では子会社「アグリサービス鈴鹿」を含め、これまで11件に対しGAP取得支援を行いました。



13. 6次産業化商品の開発・販売

地元産農産物の付加価値を高め、農業所得の向上に寄与することを目指し、6次産業化商品（農産物加工品）の開発・販売に取り組んでいます。鈴鹿ブランドに認定されている「鈴鹿茶ペットボトル」をはじめ、地元産白ネギを原材料とした「白ねぎコロッケ」や「とりめしの素」等を販売しています。令和4年度は、管内産米と茶を使った「パウンドケーキ」を開発・販売しました。



成果指標	2年度	3年度	4年度	累計販売数
6次産業化商品数	8商品	9商品	10商品	—
鈴鹿茶ペットボトル	14,395 ケース	13,471 ケース	14,717 ケース	86,714 ケース
果菜彩米おかゆ (平成28年6月発売)	1,991 個	1,850 個	1,605 個	18,549 個
フリーズドライ米 (平成28年12月発売)	1,065 個	462 個	279 個	8,016 個
白ねぎ味噌 (平成28年12月発売)	1,182 個	1,277 個	955 個	10,884 個
純米吟醸酒「鈴海山」 (平成29年12月発売)	6,546 本	6,365 本	6,315 本	35,649 本
手づくり甘酒 (平成30年7月発売)	1,191 個	1,139 個	842 個	12,022 個
梅酒「鈴海山」 (令和元年10月発売)	541 本	214 本	141 本	1,882 本
とりめしの素 (令和2年11月発売)	3,820 個	7,347 個	3,680 個	14,847 個
白ねぎコロッケ (令和4年3月発売)	—	—	47,826 個	47,826 個
パウンドケーキ (令和4年5月発売)	—	—	9,329 個	9,329 個

14. 「食」と「農」を基軸とした協同組合活動の展開

地域小学校へへの出前授業や果菜彩倶楽部会員を対象としたふれあい農園での農業体験、親子料理教室など世代やニーズに応じた食農教育を実践し、「食」と「農」に対する関心を高め、地域農業や協同組合活動への理解促進に取り組んでいます。また、「新予約共同購入運動」を通じて、食の安全・安心を広める活動にも取り組んでいます。



成果指標	2年度	3年度	4年度
地域小学校へへの出前授業	11校	15校	16校
ふれあい農園等での農業体験	2回（130名参加）	3回（143名参加）	2回（103名参加）
親子料理教室	2回（49名参加）	2回（51名参加）	2回（40名参加）
男の料理教室	4回（34名参加）	4回（45名参加）	4回（29名参加）
新予約共同購入	127名	115名	110名

出前授業実施小学校 (4年度)	庄野・飯野・明生・玉垣・箕田・若松・稲生・天名・合川・椿・井田川（鈴鹿）・庄内・昼生・白川・川崎・加太
--------------------	---

※ 4年度は、営農指導費より23万円相当額の野菜苗や資材を提供しました。

15. 組合員・地域住民が安心して暮らせる地域社会の実現

鈴鹿さつき温泉では、一般来場に加え、組合員・年金振込者を対象とした無料招待を行い、高齢者の健康維持・増進に取り組んでいます。令和3年9月には来場者が400万人に到達しました。また、毎年ボランティア会員による「ふらっとほーむ」を開所し、介護予防活動を行うとともに、コーディネーター資格の取得助成や血圧計などの健康測定器具の無料貸出を実施し、活動の充実に努めています。



組合員をはじめ誰もが気軽に参加できる介護予防教室を各店舗や要望のある公民館等へ出前で開催し、スクエアステップを通じて心身の健康と地域の活性化に取り組むとともに、鈴鹿市および亀山市と地域の見守り活動に関する協定を締結し、日常業務を通じた声掛けや安否確認を行い、高齢者や子供など誰もが安心して生活できる地域づくりに取り組んでいます。

成果指標	4年度
鈴鹿さつき温泉来場者	134,791人
ふらっとほーむ利用会員	75名
ボランティア会員	18名
ふらっとほーむコーディネーター	18名

ふらっとほーむコーディネーター資格取得助成
累計：15名（228,000円）
無償貸与健康測定器具
血圧計（6台）、視力計（1台）、 体脂肪測定機能付き体重計（3台）

16. 女性組織の育成・活性化

「食」や「農」、「くらし」に関心がある女性の参加を促進し、女性部の会員拡大に取り組むとともに、女性部活動の充実・活性化を図るため、新支部設立や活動支援を行っており、令和3年度には椿支部が設立し現在14支部が活動を行っています。



また、女性の声を事業運営に反映させるため、女性部役員とJA役員との意見交換会を開催し、積極的な話し合いを行っています。女性組織の育成に向けては、「すずか女性大学」や「フレッシュミズすずか」を通じて、若手女性層のJA事業への理解深化に取り組んでいます。

成果指標	2年度	3年度	4年度
JA女性部会員	1,357名	1,364名	1,400名
JA鈴鹿女性部のつどい	200名参加	211名参加	167名参加
女性部活動（味噌作りなど）	1,191名参加	1,172名参加	1,319名参加
すずか女性大学受講生	57名	61名	59名
フレッシュミズすずか会員	24名	23名	21名

17. 結婚支援サービスの提供

結婚相談サービス事業者と連携し、独身のお子様をお持ちの親御様を対象とした無料結婚相談会や婚活イベントを定期的に開催し、次世代層との接点づくりや関係深化に取り組んでおり、これまでに26名の方が成婚されました。(新型コロナウイルス感染防止のため、電話相談を主に活動を行いました。)

18. 組合員・地域とのつながり強化

毎年「のうきょうまつり」を開催し、組合員・地域との交流を深めるとともに、新たなJAファンづくりに取り組んでいます。本年度も新型コロナウイルスの流行・拡大により多数の方々に来場いただく「のうきょうまつり」は、春の開催を見送り総合展示会の開催としましたが、秋からはコロナ禍の状況を確認しつつ徐々に規模を拡大し、ふれあいの場となる「のうきょうまつり」を運営し9,671人の方にご来場いただきました。(春・秋合計16,988人)

地域貢献活動では、当組合の全店舗は三重県警が認定する「子ども安全・安心の店」として、地域の子供たちを犯罪や危険から守る取り組みを行っています。

また、スポーツ振興としては、日本リーグに参戦している地元ハンドボールチーム「三重バイオレットアイリス」への活動支援を行っています。



令和4年度 子供の見守り活動実績

のべ 962日、386時間

19. 新型コロナウイルスによる影響を受けた農家等に対する支援

新型コロナウイルス感染症の発生・流行に伴い、各種イベントの中止や外出自粛により農畜産物の消費が大きく落ち込んでいます。その中で、通常時の消費量を確保すべく果菜彩各店舗へ地場産農産物の応援ポスターを掲示し消費拡大運動を展開しています。

また、コロナウイルスの影響を受けた農家の経営継続・回復を支援する事業復活支援金の「継続支援関係の登録確認機関」として、申請を行おうとする組合員の事前確認サポートを行いました。

その他、農家経営に対する支援として、コロナウイルスの流行や資材価格高騰に伴う影響を受けた組合員に対し、保証料の全額助成と利子助成による運転資金等の支援に取り組んでいます。



事業復活支援金の事前確認支援	15件
コロナウイルス対策資金 取扱件数	累計 55件

J A 鈴鹿 「農業者所得向上・地域活性化」に向けた総合支援策
 <<令和4年度>>

1. 営農振興基金による支援

A. 振興園芸事業

対象作物	①	白ネギ	
	②	加工用野菜（カボチャ、ハクサイ）、振興野菜（白ネギ、キャベツ、三重なばな、ニンニク、サトイモ）	
対象者	①	10a（1,000㎡）以上の新規取組（新規就農者、経営転換等）もしくは10a以上の規模拡大を行う方	
	②	5a（500㎡）以上の新規取組（新規就農者、経営転換者）もしくは5a以上の規模拡大を行う方	
対象経費	①	資材費 機械・設備	新規取組にかかる経費（播種器、ネギネット） 新規取組および規模拡大にかかる経費 （育苗ハウス、定植機、土寄せ機、収穫機、出荷調製機械・設備）
	②	資材費	新規取組および規模拡大にかかる経費（マルチ、不織布等）
助成内容	①	新規取組 規模拡大	上記の経費合計額の50%以内（限度額：100万円／経営体） 上記の経費のうち、機械・設備にかかる費用の50%以内（限度額：100万円／経営体）
	②	上記の経費	※ただし、拡大した面積1a（100㎡）あたり5,000円以内（限度額：10万円／経営体）

B. 施設園芸事業

対象作物	施設園芸作物		
対象者	1a（100㎡）以上の新規取組（新規就農者、経営転換等）		
対象経費	施設設備	新規取組にかかる経費（パイプハウス一式、灌水設備、加温設備等）	
助成内容	上記の経費の50%以内（限度額：100万円／経営体）		

C. 多彩な野菜づくり応援事業

対象作物	園芸作物全般		
対象者	1a（100㎡）以上の規模拡大を行う方		
対象経費	種苗費	規模拡大にかかる経費	
助成内容	上記の経費 ※ただし、拡大した面積1a（100㎡）あたり5,000円以内（限度額：5万円／経営体）		

D. その他事業

対象作物	当組合の審査会が適当と認めた作物		
対象者	10a（1,000㎡）以上の新規取組（新規就農者、経営転換等）もしくは10a以上の規模拡大を行う方		
対象経費	機械・設備	新規取組および規模拡大にかかる経費	
助成内容	上記の経費の50%以内（限度額：100万円／経営体）		

- ※ Aの①・B・Dの各事業は、3年間の事業計画書を提出していただき、その計画が審査会によって適当であると認められた方が助成対象となります。
- ※ Aの②・Cの事業は、助成申請書を提出していただき、事業完了後に実績報告をしていただく方が助成の対象となります。
- ※ 助成対象経費のうち、機械・設備については100万円が上限となりますが、助成回数制限はありません。また、汎用性のある機械は助成対象となりませんのでご注意ください。
- ※ 事業完了後3年間の事業実績が計画どおり進捗し、審査会で適当であると認められた方は、50万円を限度として再助成の対象となります。ただし、機械・設備の新規購入費用を対象とし、既存の機械・設備の更新費用は対象外となります。
- ※ 行政からの補助金の交付を受けた方、または受ける予定がある方は対象外とします。

詳しくは・・・ 営農指導課 ☎ 059-384-1126

2. 地域・農業活性化に向けた新たな支援策

名 称	要 件	助成（支援）内容	お問い合わせ先
GAP 認証取得支援	「JGAP」、「ASIAGAP」、「GLOBALG. A. P」のいずれかの認証を取得するために必要な費用を助成します。	① GAP 認証の取得に係る審査費用の 50%（上限 20 万円） ② ICT を活用した情報システムの利用費用の 50%（上限 5 万円） ③ 残留農薬、土壌及び水質の分析・調査費用の 50%（上限 5 万円） ※ 国・県等が実施する他の助成事業を受けるものは除きます。	営農指導課 ☎ 059-384-1126 農畜産課 ☎ 059-384-1163
獣害被害対策支援	〈防護柵〉 鈴鹿市・亀山市・四日市市から獣害被害対策に関する補助を受け、防護柵を設置された方。	〈防護柵〉 行政が行う補助事業の補助残の 50%相当額または 15 万円のいずれか低い金額。ただし、行政から交付される補助金額の 50%が上限となります。	営農指導課 ☎ 059-384-1126
農業関連免許等取得支援	農業経営を行うために必要な免許および資格の取得費用を助成します。	各種免許および資格の取得費用の 50%（上限 5 万円） 《対象免許・資格》 大型特殊自動車（限定解除含む）・けん引自動車・フォークリフト・ボイラー技士・農業機械士・農業管理指導士・マルチローター技能認定など	農畜産課 ☎ 059-384-1163
農機格納点検整備料助成	コンバインまたは田植機の格納点検整備を受けた方を対象に助成します。	点検整備料の基本料金の 20%	農機自動車課 （整備センター） ☎ 059-379-5510
農業資金借入者への負担軽減措置	農業経営資金（借入金額 100 万円以上）を新規借入される方の金利の負担を軽減します。	借入当初 3 年間の借入金利を最大 1%減免します。	融資課 （ローンセンター） ☎ 059-384-1115
高齢者健康支援	ふらっとほーむでの福祉活動に参加するボランティア会員	健康測定器具の無償貸与	生活福祉課 ☎ 059-384-1123

※ 助成金の総額には上限がありますので、多数の申請があった場合は、助成要件を満たしていてもご希望に添えないことがありますので、あらかじめご了承下さい。

各支援事業の詳しい内容については、チラシ・募集要項等でご確認いただくか、担当窓口へお問合せ下さい。

JAが取り組む農業を通じた食農教育活動や地域づくり活動



JA鈴鹿と地域とのつながり

JA鈴鹿は、豊かで暮らしやすい地域社会を目標に、管内に住む人々のさまざまなニーズや願いを満たすため、事業に取り組んでいます。そのため、地域に根ざした活動を行い、組合員の営農と地域農業を確立するとともに、豊かな生活を地域住民とも手を取り合って実現しようとしています。

これからも、組合員・地域の皆様から必要とされ続けるJAであるよう、総合事業の強みを活かした事業展開に取り組んでいきます。



親子料理教室



ふれあい農園での食育活動



ふらっとほーむののぼり

JAってどんな仕事しているの??

地域住民の皆様が便利で過ごしやすい生活が送れるようサポートしていくことがJAに与えられた使命です。農家へ営農技術や経営の指導を行ったり、農業生産に必要な肥料や農薬等の共同購入、農産物直売所の経営を行うことで、農業の生産力や所得向上のお手伝いをしています。また、農業の分野だけにとどまらず、「貯金」という形でお金を預かり、そのお金を原資として貸し出しを行う「信用事業」、「ひと・いえ・くるまの総合保障」（生命と損害の両分野の保障）を提供する「共済事業」など、いくつもの事業を展開することで、地域住民の生活に寄り添い、地域農業を守っています。

指導事業



営農に関する技術指導や相談の他、組合員のライフスタイルに合わせたくらしの活動を提案し、地域の活性化に取り組んでいます。

農業経営事業



担い手のいない農地を利用して、農産物の栽培をしています。生産した野菜は市内の学校給食や、市場に出荷して消費されています。

販売事業



市場で有利販売ができるよう、農畜産物をまとめた数量で売る「共同販売」を行い、農家の所得向上に取り組んでいます。

購買事業



農業や生活に必要な安全で品質のいい資材を大量購入等で安価に仕入れ、組合員に安定的に供給しています。

開発事業



組合員の資産形成の住宅関連資材の斡旋や、土地の売買や賃借の仲介を行っています。

利用事業



個人では所有できない大規模な乾燥施設や食品加工施設を、組合員が利用できるようにJAが設置・運営しています。

信用事業



地域の金融機関として、貯金・融資・為替業務などの金融サービスを提供しています。

共済事業



助け合いの理念に基づき「ひと・いえ・くるまの総合保障」を提供しています。

JAが行う各事業は、組合員の方に限らず、基本的に誰でも利用することが出来ます。

JAではこれらの総合事業を展開し、地域の活性化に貢献しています。





耕そう、大地と地域の未来。